1993年(平成5年)6月25日(金曜日)

NO.87

被ばく者援護に1392万円

「秋田ベラルーシ友好協会」に

国際ボランティア貯金 民間団体に初の配分

目録を受けとる渡部会長（右）

チェルノブイリ原発事故の被ばく者への医療援助などを行っている「秋田ベラルーシ友好協会」（渡部美種会長）に対して二十四日、郵便局の国際ボランティア貯金の寄付金一千三百九十二万四千円が配分された。本県の民間団体への配分は今回が初めて。

東北六県では十六団体（十八事業）が配分を申請、このうち九団体（九事業）に総額三千二百十万九千円の配分が決まった。同協会は本県唯一の申請団体だったが、この九団体中もっとも多い配分を受けた。

同協会では被ばく者に対する医療機器や医薬品などに配分金を使う予定にしている。

ボランティア貯金は一年度に始まり、四年度までに全国で約六十二億円、本県では約十一万五千件、約千八百万円が集まった。これまではアジア・アフリカでの事業に対するものがほとんどだった。

秋田中央郵便局では、これを機会にボランティア貯金をより広く知ってもらうと同時に、他の団体からも申請が出ることを期待している。

93.6.25 マイガイ

ボランティア貯金

ベラルーシ友好協会に交付

秋田中央郵便局

全国の郵便局で行われている国際ボランティア貯金の平成五年度交付金の配分先が決まり、本県では二十四日、秋田中央郵便局（工藤別局長）から秋田ベラルーシ友好協会（渡部美種会長）に一千三百九十二万四千円が交付された。

国際ボランティア貯金は通常貯金の利子の二〇％を貯金者に寄付してもらい、開発途上国の福祉向上の活動などを行っている全国の民間海外援助団体に交付する制度。郵政省が平成三年から行っており、今回は全国三百四十一団体に合わせて二十一億八千五百六十三万三千円が交付された。

本県初の交付となった秋田ベラルーシ友好協会は昨年七月設立。ベラルーシ共和国のチェルノブイリ原発事故被災者への医療支援活動、医学研修生の受け入れなどを行っている。

同協会では「皆さんからの善意を有効に使い、本県とベラルーシ共和国との交流を一層進めたい」と話している。交付金は血液成分を測る血液ガス分析装置など医療機材の供与に充てられる。

93.6.25 朝日

ベラルーシへ届け

秋田

秋田大学教育学部付属中学校（秋田市保戸野原の町）のPTA文化部（竹屋寿代部長）が不要になった文具や玩具（がんぐ）を集め、二十五日、同校で秋田ベラルーシ友好協会（渡部美種会長）に引き渡した＝写真。同協会が今年八月、チェルノブイリ原発事故の被害を受けたベラルーシ共和国を訪れる際、現地の子どもたちに渡してもらうという。

引き渡されたのは、段ボール七箱に入ったノートや鉛筆、消しゴム、ぬいぐるみなど。今月二十一日から三日間、保護者らに呼びかけて集めた。

同文化部は「病気に苦しむ子どもたちに、少しでも潤いの時があることを願って、初めて実施した」という。